

令和4年度 第2回社会教育委員会議 会議録

日 時 令和4年10月26日(水)

午前10時40分 開会

会 場 蕨市民会館 201・202室

出席委員／ 徳丸、田中、佐藤(一)、佐藤(由)、前川、佐藤(則)、松崎、上野、須賀、太田、永井、奥田、杉山 各委員

欠席委員／ 山野、中里 各委員

議事参与者／ 松本教育長、渡部教育部長、鈴木館長(中央公民館)、岡本館長(東公民館)、荒川館長(西公民館)、萬年館長(南公民館)、桑島館長(北町公民館)、小川館長(下蕨公民館)、佐藤館長(図書館)、黒澤館長(旭町公民館・指定管理者)

事務局／ 加納教育部次長・生涯学習スポーツ課長、池澤生涯学習スポーツ課スポーツ推進係長、岩下生涯学習スポーツ課青少年係長、竹田生涯学習スポーツ課生涯学習振興係長、深津生涯学習スポーツ課主事、帯刀生涯学習スポーツ課主事

1 開 会 午前10時40分

2 委嘱状交付

奥田委員(令和4年8月23日就任)に交付

3 あいさつ

徳丸 議長

4 前回会議録の承認

承認された。

5 議 事

・報 告

(1) 生涯学習関連行事等について

【資料1】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(2) 第39回けやき文化賞について

【資料2】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(3) 令和4年度後期 文化活動事業助成について

【資料3】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 特定非営利活動法人わらび市民ネット設立10周年記念事業だが、報告では3月18日(土)実施と報告があったが、3月19日(日)に実施する。

(4) 第8回(令和4年度)蕨市民音楽祭について

【資料4】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

・協 議

(1) 社会教育関係団体の認定について

2件の認定申請があり、各公民館長から説明があった。

～協議の結果、全て承認された

委 員： 質疑なし。

6 その他

委 員： このコロナ禍で公民館活動ができずにいる話を色々な方から聞いている。各公民館にネット環境があれば、館から各自宅にオンライン配信などができると思う。現状、コロナが終息することが難しいと感じるため、ネット環境をぜひ配備してほしい。高齢者の方がネットに興味を持つことは、今後、個々の日常生活でも必要なことである感じているので、ぜひとも考えていただきたい。

中央公民館長： 自治体でもDXが広がっているため、コロナ禍やその終息後のことも見据え、予算などの関係も含め検討を進めていく。

委 員： 意見ではないが、私が活動している図書館で読み聞かせをする団体の報告をさせていただく。8月から電子図書館サービスが開始された。夏休みに子どもたちを対象に夏のお楽しみ会を実施し、子どもたちに電子図書を見せて行った。今ま

では紙芝居、絵本やお話をしていましたが、子どもたちが多いと見えにくいことがあった。電子図書は、大きな画面に映せるので見えやすい。11月に計画している大人向けのおはなし会では、電子図書を活用して、「でんでんむしのかなしみ」を見ていただく。

また、小学校を会場に行っているわらび学校土曜塾について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた時期もあったが、感染が少し落ち着いた令和3年度から再開し、当時は公民館で実施していた。公民館は管理の方がいるため、何かあったときは協力いただいたなどの利点はあった。今年度は、子どもたちが行き慣れている場所であることや休み時間に異学年の子どもたちと校庭に出て遊ぶことができるため、会場を小学校に戻して実施している。しかし、残念なことに参加者数が少なかった。地域のスタッフは、勉強を手助けしてあげたい気持ちがあるが、先日もスタッフと参加者の人数が同じであったため、マンツーマンで対応した。言い換えれば、じっくり勉強ができたということであるが、事前打ち合わせ会のときに校長や教頭に外国籍の人たちもいると思うので、声をかけてくださいとお願いしている。

委員： 蕨市は、団体の自主的な活動を尊重しながら、教育委員会がそれを支援することによって、より大きなつながりを作り出す理念が徹底されている。コロナ禍ということも重なり、先日の生涯学習フェスティバルでもお話しさせていただいたのだが、社会教育は不要不急のジャンルに入れられ、どんどん縮小の傾向となっている。蕨市の場合はコロナ禍でもあるが、懸命につなげる。参加するという大切さをかみしめている市民の方や子どもたちがいて、社会教育活動を続けている。簡単にアフターコロナとひとくくりにできない面もあるが、ウィズコロナの中でも、蕨市の社会教育という活力を維持するこの会議もその役割を担っていると実感している。

一つ聞きたいこととして、蕨市の場合は、音楽祭が非常に大きなイベント、蕨市の社会教育全体を包み込むような包括的な事業となっている。音楽祭に参加したり、興味を持ったりする際に、音楽といったキーワードで区切られ、文学とか歴史といったジャンルの人は「これは（自分には）関係ない」といったスタンスでいいのか。一つのキーワードで、主要な事業を打ち出すときに、その事業の包括する範囲を広げながら、つながりを様々な活動や団体に広げているという知恵を色々な町のあちこちで拝見して、特に私は、広島で調査をしており「平和」という大きなテーマでつながろうとしている。

音楽というキーワードでどこまでも普通に常識的に演奏するのではなく、先程出ていた朗読といった活動はぜひとも音楽とつなげるのもいいのではと思う。障害者というキーワードで見たときはどうなのか。文学的な意味での芸術表現と音楽を結びつけて、新たな表現をできればいいのではと思う。例えば、詩と音楽をつなげるなど、その年の独自プロジェクトとして音楽と結

びつけるのはどうか。「音楽」という大きなキーワードを蕨の社会教育の顔とし、そこに入れない人がいないような工夫、そこから漏れる人がいない工夫、「私には関係ない」ではなく「おもしろそう」と思える投げかけや仕掛け、枝葉を広げ、その年その年の独自プロジェクトのような、小さなプロジェクトを積み重ねて、市民の音楽、プロとはまた違う、生活的な表現・解釈を次の10年、20年のプロジェクトとしていければよいと思う。

委員： 「むしばんコンサート」では、音楽と文学・詩・エッセイ・物語など朗読と音楽を結びつけた活動を35年間続けている。その中では、視覚が不自由な方々に来ていただいて、席をつくって聞いていただく。和楽器・打楽器・琴など、様々な楽器も取り入れてきた。35年間続けており、参加者がどんどん増えた。残念ながら3年前からコロナとなったが、コロナ禍でも続けてこられたのは、ケーブルTVでの放映や参加人数を半分にするなどの工夫をしたからである。塚越地区は線路を挟んだ先にあり、分断がされているので、他地区には活動が知られていないように感じるため、音楽祭の中に一つ枠をいただければと思う。音楽祭に誰しもが入れるようにした方がよいという意見は、その通りだと思った。

事務局： 音楽祭は、広く行っていききたいと思っており、色々なジャンルの方や普段は音楽になじみがない方も参加できるイベントにしていきたいと考えている。音楽をツールに社会教育がより良くなるように引き続き努めていく。

7 閉 会

徳丸 議長

午前11時30分 閉会